

進学指導重点校における、自己表現への意欲を高める研究

—生徒一人一人の自尊感情の向上を通して—

福島県立橋高等学校 教諭 佐々木 理恵

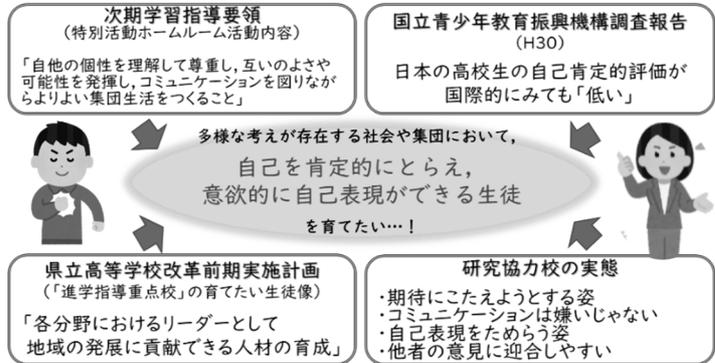
1 研究の趣旨

(1) 研究の趣旨

進学指導重点校においては、地域の発展に貢献できる人材の育成が求められている。そこで、相手や場に応じ、自信をもって自己表現ができる生徒を育てる必要があると考えた。本研究では、生徒の自尊感情の向上に重点を置き、教育相談的な手法を取り入れて積極的に自己表現しようとする意欲を高めることを目指した。

(2) 研究仮説

以下のような視点に基づいた手だてを講じれば、生徒一人一人の自尊感情^{※1}を向上させ、自己表現への意欲を高めることができるだろう。



【視点1】自己理解による自己受容

【視点2】教育相談的な手法を活用した対話のスキル^{※2}の習得

※1 自己に対して肯定的な評価を抱えている状態で、自己肯定感と同義ととらえる。

※2 本研究では、コミュニケーションにおける、よりよい聴き方、自分も相手も大切にする自己表現の仕方を対話のスキルととらえる。

2 研究の概要

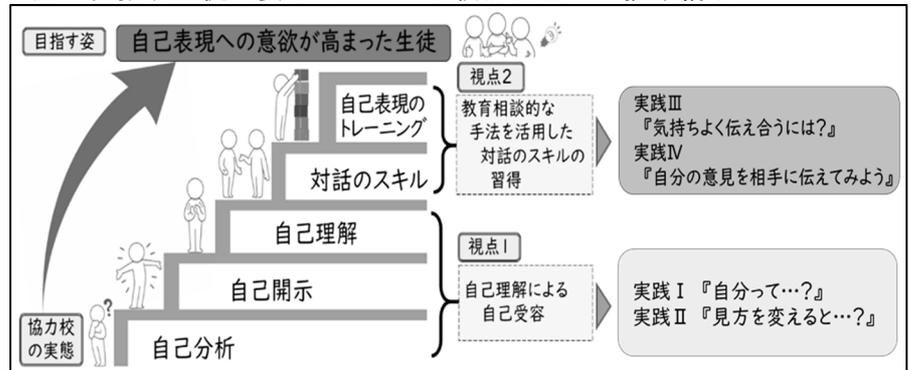
(1) 研究対象

- ・進学指導重点校1年生

(2) 実践概要

- ・ASSESSと独自調査による実態把握調査(280名)
- ・LHRを活用した4回の授業実践(2クラス80名)
- ・記述式アンケートの実施
- ・教育相談通信の発行

図 目指す生徒の姿のイメージと視点に基づく授業構成



3 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 授業後の振り返りから、各授業のねらいに沿った理解は授業直後は高まっていることが分かった。
- 【視点1】【視点2】に基づく各授業の手だては、自己理解の深化や対話への自信を高める一助となったと考える。
- 全実践後の生徒の自由記述から、授業で学んだ表現に関する知識や対話のスキルを、今後の授業に生かしたい、との意識が高まった。

(2) 今後の課題

- 授業で意識して取り組んでも、日常化は難しいとの生徒の記述から、授業での体験的理解を日常の場面に生かすには、より実践的な演習の充実が求められる。
- 生徒の自己表現への意欲をさらに高めるためにも、LHRや授業におけるアプローチを担任や授業担当者と連携しながら、今後も継続的な指導・援助の在り方を探っていきたい。